

ヘルスケアミーティング 2024 を振り返って

河野雄一郎（コアメンバー）

ここ2年間リアルでのヘルスケアミーティングは開催されてはいましたが、今年は会場をより大きな一橋講堂に移し、リアルにより重点をおいたかたちで開催しました。今年もWeb配信を併用し、参加者は約270名がリアル、約80名がWeb、計350名と、コロナ前を思い出させるほどの盛会でした。初めての会場ということでスクリーンが見にくいなど多少の問題がありましたが、大きなトラブルはなく2日間を終えることができました。

1日目はメインテーマである「歯周基本治療からはじまるヘルスケア歯科診療」という内容で大西歯科の藤木省三さんより基調講演があり、私たちホームデンティストが行うべき歯周治療とメインテナンスの考え方をわかりやすく説明していただきました。X線撮影・口腔内規格写真・歯周組織検査など忙しい毎日の診療のなかで、ただ資料を採るのではなく、正確に採ることの大切さや資料を採る際のキーポイントなどを教えていただき、参加者それぞれが明日からの診療の答えやヒントを見つけられたことと思います。

また最後の質疑応答では参加者の質問や意見をGoogleフォームを使ってリアルタイムで参加者全員が見られるようにし、活発な意見交換ができました。院長の役割に関してはそれぞれ心に響くものがあったのではないのでしょうか。

ヘルスケア歯科診療はチーム医療です。1人で行うことはできず歯科衛生士さんはもちろんのこと、スタッフ全員で、はじめて行うことができるものということを改めて考えさせられる1日目となりました。夜は26年前に日本ヘルスケア歯科研究会の創立総会が行われた日本教育会館の同じ建物内にある喜山倶楽部で懇親会が行われました。「聖地巡礼」ということで、これからの10年、20年先のヘルスケア歯科学会に想いをはせながら会員同士の交流を図ることができたかと思えます。

2日目午前中は、「あっちもこっちもヘルスケア」ということで3会場にわかれて計6つのプログラムが開催されました。症例発表だけではなく歯科衛生士向けの内容から医院づくりに関することまで様々な講演が行われ、各会場盛りあがったようでした。私自身は「ヘルスケア歯科診療とDx」のパートを担当しましたが、40名以上の参加者があり、プログラムが終わった後も各講師に質問される方がおられたりと予想以上の盛りあがりでした。

また、「あっちもこっちもヘルスケア」という名前のとおりあっちもこっちも見たくて、どの講演を聞くか迷っていた参加者もいたようでした。午後は大西歯科で25年以上続けてきたUP-SRPテクニックについて藤木さんと歯科衛生士の野村朱美さんにお話しいただきました。従来のSRPの方法とは違うこともあり、今回初めて聞く方や、同じようにやってるがうまくいかない方など、いろいろな方がおられると思いますが、今回書籍と超音波スケーラーのチップも発売され、UP-SRPというまたひとつの選択肢を得たことにより、ヘルスケア診療における歯周基本治療が一段と質の高いものになることが期待されます。

また今回のポスター発表はセッションの時間を設け、古市貴暢さんと曾野偉鍊さんによって発表者ヘインタビューをしたものを動画にするという新しい試みをしました。ポスターをゆっくり見ることができなかつた方もおられると思います。ぜひ一度動画をご覧ください。

最後になりますが今回は会場が大きくなったこともあり、例年にも増して様々なテーマで2日間多くの会員が発表し、大変活気のあるミーティングになったと思います。来年のテーマは「ひとをみる歯周基本治療」です。今年の内容をより発展させたプログラムの計画をしています。1年間各々が各診療所で研鑽を深め、また会場で皆さんとお会いできるのを楽しみにしています。